

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスあかり			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日		～	2025年 3月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	25名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日		～	2025年 3月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○活動プログラムの充実 季節の企画に加え、月の目標を設定し、工作、リトミック、季節の収穫、外出等の幅広い活動プログラムを実施している	全体会議や日々の申し送りの際に、活動プログラム内容について職員間で意見を出し合い、子ども達が楽しく参加できる内容を検討し、検討している。 活動に対する目標は同じでも、内容が固定化しないようスケジュールを立て、職員が月の活動内容を把握することで、日々違う内容の活動が提供できるようにしている。	個人面談やアセスメント、送迎時等でお子様や保護者様からのニーズを伺い、実現させるための方法を検討していく。 お子様の将来の姿を想像し、未来に繋がる活動内容を考案し、実現に向けて取り組んでいく。
2	○活気のある、明るい雰囲気 職員や子ども達の元気な明るい声が飛び交っていることで、自然と笑顔になり、元気が湧く雰囲気	職員同士のコミュニケーションを大切にし、悩み等を抱えず笑顔で支援を行える環境作りを意識している。 ネガティブな表現ではなく、言葉等をポジティブな表現に変え、明るい気持ちで子ども達も職員も過ごせるように努めている。	職員が率先して企画や活動を楽しみ、子ども達の参加意欲を引き出しながら楽しさや喜び、達成感等の共有が出来るよう支援につなげていく。
3	○幅広い年齢層の子ども達同士の関わり 小学1年生～高校3年生の幅広い年齢層の子ども達が、思いやりや優しさに触れ合う機会が伺える。	幅広い年齢層の子ども達が思いやりや優しさに触れ、感性や感覚を大切にしながら、やってみたい、作ってみたい、できたという気持ちを共感しながら楽しめるように努めている。	地域の子ども達と関わる機会も取り入れ、他者との関わり方や距離感を知る経験を積み重ねられるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○地域の場の活用方法と地域住民との関わりが少ない	大きな公園を利用したり、地域のイベントに参加しているが地域住民との関わりを持つことが難しい。 日曜日や長期休み以外では、近隣に公園がない事と下校時間等の兼ね合いで敷地内外遊びになる事が多く、地域の場を活用する事が少ない。	今後も引き続き地域イベントや公園には積極的に出かけ、活動プログラムに地域の場への内容を考案していく。 小グループでの外出にすることで、平日でも地域の方々と交流を増やせる機会を提供していく。
2	○支援室の環境整備	来所後に自由時間を過ごしてるお子様と、宿題をしたり、おやつを食べたりしているお子様が同じ空間で過ごしている為、集中しづらい環境になってしまう。活動内容によりエリアを分けているが、楽しそうな声が聞こえたり動きが多かったりすると、個人活動に支障が出てしまう。	パーティションを活用し、自由時間とその他の活動でエリア分けする事で、目の前の事に集中できる環境作りを行う。 また必要に応じて自由時間の過ごし方を見直し、時差での来所が多い日は、静かに取り組める活動を提供し、落ち着いた空間になるようにしていく。
3	○個々に合わせた集団活動プログラムの提供	お子様の日常生活スキルの幅が広い為、個々に合わせた集団活動プログラム内容の設定が難しい。	職員がお子様一人ひとりの課題や強みを把握し、活動プログラムに活かせるよう取り入れていく。また、都度職員間で共有し、共通認識を持つことで、個々の目標に活かしていく。